

中海市長会の事業実施状況・計画

(平成21年11月27日現在)

＜平成21年度 事業中間報告＞

1 (仮称) 中海圏域振興ビジョン (平成21年度内に策定予定)

中海圏域が一つの圏域としてまとめ、力を発揮できるように中海圏域振興ビジョン(仮称)を策定し、圏域の将来像・目標設定など圏域内の諸団体が一体となって取り組むべき方向性を示す。

これまでには、圏域で活動する諸団体から、圏域の現状及び将来像等について、アンケートの実施(実施61団体・回収率55.7%)及び懇談・意見聴取(27団体)、並びに中海市長会の6部会でビジョンの概要について検討を行った。

今後、(仮称)中海圏域振興ビジョンは、構成市町及び議会に相談しながら、議論を深め原案を作成する。その後、広く意見を求めるため、ホームページ等で公表することについても検討する。

2 中海市長会シンポジウム(仮称)の開催

「中海圏域振興ビジョン(仮称)」(案)及び「定住自立圏共生ビジョン」(案)をシンポジウム場で公表し、広く意見を聴取する。

実施時期 平成22年2月頃の開催に向け調整する。

3 各種団体との連携推進

行政区域を超えた取り組みを行っている諸団体をリストアップし、平成21年9月から10月にかけて8分野27団体と意見交換を行った。

この意見交換では、圏域が県境をまたいでいることにより、情報が入手できない、あるいは、生活に欠かせない道路・交通の便が十分でないことなどがわかった。

今後は、これら諸団体と構築した窓口を活かして、中海市長会や他団体とどのような連携が推進できるのかを検討する。

4 中海圏域の情報発信

中海圏域を一つの圏域として、認知してもらうため圏域の内外にPRする。

(1) イメージキャラクターによる圏域PRの充実

中海圏域は、圏域の共通したイメージが定着していないため、イメージキャラクターの着ぐるみやグッズを作製し、圏域内外のイベントでPR活動を行なった。

① 「ウンパくん」の着ぐるみを作製

各市町のお祭り等、圏域内のイベントでPR活動を行った。

・着ぐるみ完成 7月17日

・出演イベント ・みなと祭り(雨天のため出演中止)・水郷祭・がいな

祭・月の輪祭・島根県立美術館イベント・松江市交通社会実験（3回）・なかうみマラソン・米子空港祭・ざいごフェスティバル・マリンハートフェスタ in みほのせき・定住自立圏全国市町村長サミット のべ計12回

② キャラクターグッズの配布

圏域内で開催されるイベント時にキャラクターグッズを配布し、中海圏域のPRを行った。

- ・ 名刺貼り付け用のウンパくんシール
印刷枚数 12,500シート（内9,800シート配布済み）
配布開始 5月
- ・ ウンパくんのうちわ
印刷枚数 3,000枚（配布済み）
配布時期 8月

③ 中海圏域産業技術展の受付看板

受付にウンパクンのデザインが入った看板が設置された。

④ キャラクターデザイン使用

中海沿岸にある「道の駅本庄」の記念切符に、「ウンパくん」のデザインが採用された。

(2) 中海圏域の共通ポスター・チラシによる圏域PRの充実

圏域内においては、一体感の醸成を図ると共に、圏域外には、圏域の知名度アップを図るため、共通のポスター・チラシを作製し、圏域内外に配布した。

- ① 共通ポスター（1,000枚）、チラシ（10,000枚）の作製・配布（6月～）
- ② 配布先 中海市長会構成市町、各市観光協会などの観光関係団体、両県東京事務所、さんいん堪能店（首都圏）、道の駅、他各種イベントにて配布し、圏域のPRを行った。
- ③ 共通ポスター制作は、中海四市観光協会会議に協力いただいた。

5 連携活動の充実事業

定住自立圏構想の連携事業の洗い出しや、自治体間の事業調整及び圏域のビジョン策定のため、担当分野ごとに作業部会を設けた。

- ① 専門部会 企画部会4回、総務部会4回、産業・観光部会4回、福祉・医療部会4回、建設部会4回、教育部会4回の設置を行った。
- ② 各担当課長会 企画課長会8回、観光課長会2回、給食課長会2回

6 人事交流の実施

圏域の一体感を醸成するため、県境を越えた自治体の職員人事交流を継続実施した。

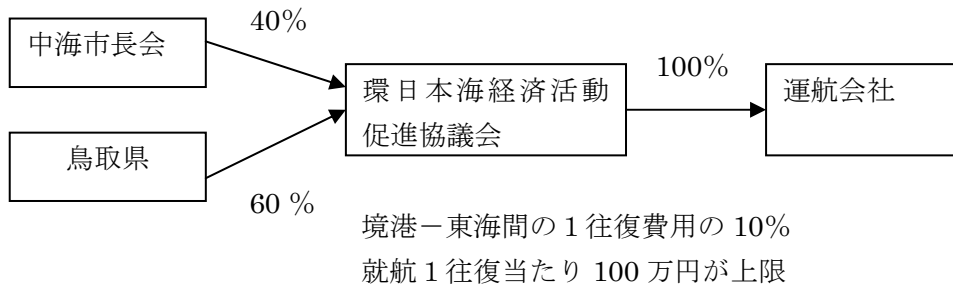
- ① 交流自治体 米子市「総合政策課」⇔安来市「企画調整課」
松江市「観光文化ブランド推進課」⇔境港市「貿易観光課」
- ② 交流期間 平成 21 年度～平成 22 年度(2 年間)

7 青少年海外研修事業（新型インフルエンザのため中止）

8 環日本海貨客船航路就航支援事業

環日本海航路を実現するため、鳥取県と連携をとり、環日本海貨客船航路就航の支援を行なう。

- ① 支払い先 環日本海経済活動促進協議会（事務局：境港貿易振興会）
- ② 支援金額 中海市長会支援額 3,840 万円・鳥取県支援額 5,760 万円
- ③ 就航回数 年間 96 往復



- ④ 中海市長会の予算対応 特別会計を設置し、実績に基づき助成する。
- ⑤ 正式就航 6 月 29 日（東海市）出港
- ⑥ 就航実績
 - ・乗客数 6・7 月 3,782 人（8 便・236 人/便）
8 月 6,712 人（9 便・373 人/便）
9 月 2,354 人（8 便・147 人/便）
10 月 2,050 人（8 便・128 人/便）
 - ・貨物 31 回運航合計 52 個（20 フィートコンテ）
(20 フィートコンテナのサイズ：6,058mm×2,438mm×2,591mm)

9 新たに取り組んだ事業

(1) 日本都市計画学会「国土広域地方計画研究会」「越境地域連携システム研究会」合同研究会

- ①日 程 平成 21 年 7 月 29 日
- ②開催地 松江市
- ③主 催 日本都市計画学会「越境地域連携システム研究会」
- ④概 要 ・「国土広域地方計画研究会」「越境地域連携システム研究会」の参加
・中海圏域担当課長へ広域連携についてのヒアリング
・参加者 120 名

(2) 「定住自立圏」全国市町村長サミット 2009in 島根

- ①日 程 平成 21 年 10 月 14 日～15 日
- ②開催地 松江市
- ③主 催 総務省、定住自立圏全国市町村長サミット 2009in 島根実行委員会
- ④概 要 ・定住自立圏の推進に取り組む市町村長が一同に会し、5 つの分科会に分かれて、それぞれが取り組む事例の発表や意見交換が行われた。
・地域づくり分科会で松浦市長が中海市長会について発表した。
・参加者 780 名
・中海市長会ブースを設置し、圏域のポスター、着ぐるみにより PR を行った。

10 後援等

- 平成 21 年 7 月 24 日 これからどうなる 世界の経済・日本の景気～東アジアの共存共栄という視点から回復の道を探る～（米子市）
- 平成 21 年 7 月 24 日～8 月 23 日 「ニューカレドニアと南の島の水族館」（境港市）
- 平成 21 年 9 月 10 日 第 2 回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミット（松江市）
- 平成 21 年 9 月 27 日 第 4 回中海レガッタ
- 平成 21 年 10 月 3 日 美保関神社特別公演 旅歌語り 小椋佳（松江市）
- 平成 21 年 10 月 23 日 第 4 回中海圏域産業技術展展示商談会（境港市）
- 平成 21 年 10 月 31 日～ 浅田次郎原作 映画「銀色の雨」先行上映（鳥取・島根）
- 平成 21 年 11 月 1 日 第 5 回なかみマラソン全国大会（安来市）
- 平成 21 年 11 月 6 日～7 日 全国アマモサミット 2009（米子市・境港市）

1.1 取組経過

(1) 中海市長会の開催状況

平成21年度第1回中海市長会 平成21年5月26日
平成21年度第2回中海市長会 平成21年8月7日
平成21年度第3回中海市長会 平成21年11月27日

(2) 定住自立圏構想関係

定住自立圏構想「中心市宣言」の公表 平成21年4月30日
平成21年第1回中海市長会 平成21年5月26日
各市町は地方自治法第96条第2項に基づく条例の制定 平成21年6月議会
6部会で連携内容の検討平成21年7月
平成21年第2回中海市長会 平成21年8月7日
各市町は定住自立圏形成協定の内容を公表 平成21年8月25日
各市町議会の議決 安来市 平成21年9月24日
〃 境港市 平成21年9月25日
〃 米子市 平成21年9月30日
〃 東出雲町 平成21年10月2日
〃 松江市 平成21年10月6日
定住自立圏形成協定調印式 平成21年10月7日
「定住自立圏」市町村長サミット2009in島根 平成21年10月14日～15日
6部会でビジョンの検討 平成21年11月

<平成22年度 事業計画（案）>

1 圏域のネットワーク構築事業

「中海圏域振興ビジョン」に基づき、圏域内外で活動する諸団体や個人等とのネットワークを構築するための事業を実施する。

(1) シンポジウム開催・「中海圏域振興ビジョン」のPR番組の制作

「中海圏域振興ビジョン」の趣旨に沿ったシンポジウムを開催するとともに、「中海圏域振興ビジョン」をわかりやすくPRする番組をあわせて制作、放映する。

(2) 「中海圏域アドバイザー」制度の創設

圏域内外で活動する各分野の団体や個人を「中海圏域アドバイザー」として委嘱し、中海市長会の活動に対して、意見をいただき事業に反映する。

(3) 中海圏域連携事業推進補助金の創設

圏域住民の文化・スポーツ等の交流を促進する事業など、中海圏域の住民や団体が一緒になって取り組める事業を実施する団体に対し、その事業費の一部を補助する制度を創設する。

(4) 青少年海外研修事業の実施

次代を担う中学生10名を海外へ派遣し、海外の教育・文化などに接する機会を提供することで、相互理解を深め、国際感覚をもった人材を育てる。

ラムサール条約登録湿地「Reifel Bird Sanctuary」（ライフェル・バードサンクチュアリー）における環境保全の取り組みと先進的なワイズユースについての学習、アジアを起源とする移民を多く受入れている都市（カナダ・ウエストバンクーバー市）のセカンダリースクール（日本の中学・高校に相当）での交歓授業、交流会及び市内周辺視察ほか

(5) 行政間の連携充実

- ① 圏域自治体の共通の課題解決・連携強化を目的に、担当分野毎に、作業部会（課長会議）を設け調整を図る。また、必要に応じ、国や県にも呼びかけ、会議へ参加してもらう。
- ② 圏域の一体感をより醸成するため、県境を越えた自治体の職員人事交流を継続実施する。（平成21年度～22年度）

2 中海圏域の情報発信事業

圏域の内外に中海圏域の情報積極的に提供し、PRする事業を実施する。

(1) メディアを使った情報発信

① ホームページによる圏域PRの充実

中海市長会ホームページは、中海市長会事業の活動状況を中心に情報発信してきたが、今後は、中海圏域で情報発信している各団体のサイトと積極的にリンクするとともに、中海圏域の基礎データをアップする等、圏域情報の交流拠

点を目指す。

②広報紙等を活用した圏域情報の共有化

4市1町の各広報紙等の紙面を利用して、各市町のイベント情報や定住自立圏事業に関する情報を定期的に発信し、圏域住民の一体感の醸成を図ることも検討する。

(2) イメージキャラクターによる圏域PRの充実

圏域内外のイベントに着ぐるみで出演し、中海圏域のPR活動を行なうため、着ぐるみ1体を追加して製作する。

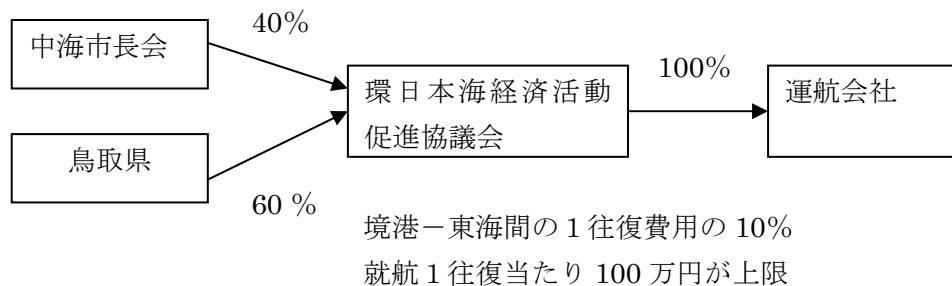
(3) 大都市圏における情報発信拠点の構築

さんいん堪能店との協力関係の強化を図るとともに、対象件数の拡大を図る。さんいん堪能店と意見交換を実施する。

3 環日本海貨客船航路就航支援事業

環日本海航路を実現するため、鳥取県と連携をとり、環日本海貨客船航路就航の支援を行なう。

- ⑦ 支払い先 環日本海経済活動促進協議会（事務局：境港貿易振興会）
- ⑧ 支援金額 中海市長会支援額 3,840万円・鳥取県支援額 5,760万円
- ⑨ 就航回数 年間96往復



- ⑩ 中海市長会の予算対応 特別会計を設置し、実績に基づき助成する。

4 定住自立圏推進事業

現在 検討中

5 未調整事業の実施に向けた検討

定住自立圏協定の締結時期に未調整であった連携事業等の実施に向けた検討を行う。